



平成29年9月28日

## 敗血症の新規病態メカニズムに基づく治療薬開発へ AMED「産学連携医療イノベーション創出プログラム」に採択

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医）薬理学の西堀正洋教授らの研究グループは、敗血症病態の解析で新規の病態メカニズムを見出し、そのメカニズムに基づく治療薬の開発研究提案を国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）に行い、9月20日、この研究提案がAMEDに採択されました。

提案は、（医療分野研究成果展開事業）「産学連携医療イノベーション創出プログラム」（基本スキーム、以下「ACT-M」）の分野で、一般社団法人日本血液製剤機構（JB）と連携して実施する産学共同研究です。

本研究では、血漿タンパク製剤の製造・販売・研究でわが国トップのシェアと経験を有するJB社との共同研究で、現在未利用の血液製剤分画からHRGを精製し、新しいHRG製剤を開発することで目的達成を目指します。

### <背景>

敗血症は感染症を原因として発症し、強い臓器障害を伴ったものを指します。世界では、新生児から高齢者まで含めて年間2000万人～3000万人が罹患し、そのうち約25%の人が亡くなっていると推計されています。一旦敗血症状態になると、呼吸不全、循環ショック、血液凝固異常、脳症を容易に発症しやすいため、生命の危険が高まります。

### <採択内容の概要>

西堀教授らの研究グループは、敗血症のモデルマウスと敗血症患者で、血漿中のタンパク質であるHistidine-rich glycoprotein (HRG)が著明低下していることを明らかにし、その結果として種々の重篤な病態を招来することを証明しました。敗血症モデルマウスでは、精製したヒトHRGを補充することで致死率が大幅に改善しましたので、この治療法をヒトの敗血症治療薬として開発することを提案し、採択されました。

近年、大学発シーズに基づき企業との協働で新薬を開発する動きが活発です。本研究では、血漿タンパク製剤の製造・販売・研究でわが国トップのシェアと経験を有するJB社との共同研究で、現在未利用の血液製剤分画からHRGを精製し、新しいHRG製剤を開発することで目的達成を目指します。



詳細はこちらからご確認いただけます。

[http://www.amed.go.jp/koubo/020220170224\\_kettei.html](http://www.amed.go.jp/koubo/020220170224_kettei.html)

<お問い合わせ>

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科（医）

薬理学 教授 西堀 正洋

（電話番号）086-235-7140

（FAX番号）086-235-7140